

報 寺 敬 覚

3 月号



月刊 ● 敬覚寺報

〒177-0032 東京都練馬区谷原6-8-12
TEL 03(3996)1833 大江義宏

▼二〇〇三年三月一日 ▲

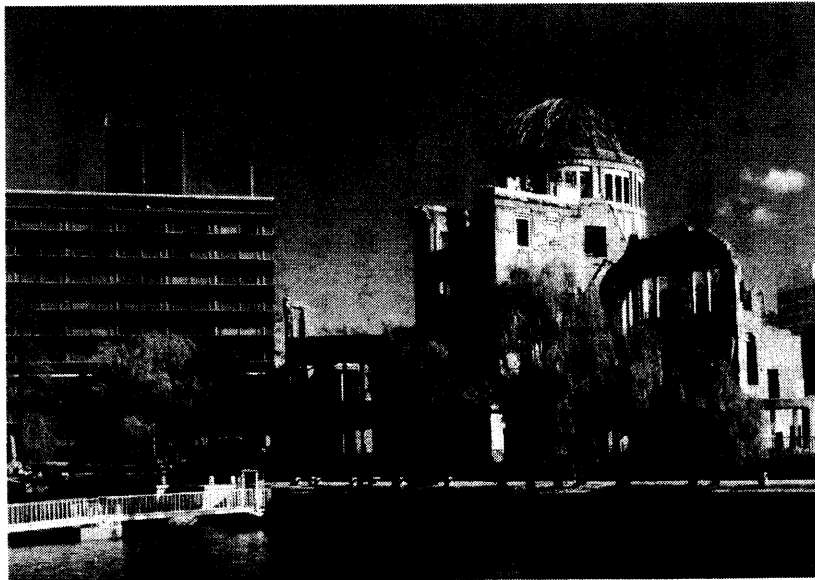
日本国 広島

● 広島平和記念碑 (原爆ドーム)

「大量破壊兵器」という言葉がマスコミの間を行ったり来たりしています。イラクも、北朝鮮も、これを武器に国を治め、国と戦おうとしています。日本は世界中で唯一、この大量破壊兵器を使用した国です。一九四五年八月六日、人類史上初の原子爆弾が炸裂した広島。「原爆ドーム」と呼ばれる建物は明治四十三年、チェコ人建築家ヤン・レルツルに設計を依頼し、大正四年に竣工し、物産陳列館として、美術展覧会や博覧会として使用されてきました。被爆の後、何回かの修理を重ね、平成四年、日本が世界遺産条約加盟国となった時、このドームを世界遺産に登録する意見書が採択されました。第二次世界大戦の遺跡としてポーランド、アウシュヴィッツ強制収容所に続くものです。人の過ち、愚かさを伝える「負の文化遺産」原爆ドームは、恒久平和を今日も訴えています。人類は二度目、三度目の過ちをおかそうとしているのでしょうか。一九九六年の登録。

うけつがれるもの うけついでいく心

—— 世界遺産 ——



だれでも真宗講座(3)



法城寺住職

瓜生津 隆真

瓜生津 隆真 (うりゅうづりゅうしん)

1932年滋賀県生まれ、龍谷大学卒、東京大学大学院修了、文学博士。専攻は仏教思想史。現在京都女子大学名誉教授。著書に『ナーガールジュナ研究』『仏教から真宗へ』他。日本宗教学会、日本印度学仏教学会、日本仏教教育学会各理事。

凡夫

聖徳太子の制定と伝える『憲法十七条』の第十条に「われかならず聖なるにあらず、かれかならず愚かなるにあらず、ともにこれ凡夫のみ」という言葉があつて、ここに「凡夫」という語がでてくる。「ただひと」とよむが、この凡夫の自覚は深い自己内省から生れたものとして高く評価されている。自分がいつも正邪を誤まりなく判断しているのではなく、また他人がつねに正邪の道理を知らないのでもないからである。

自己を省みるということとは、口でいうほど簡単なことではない。『蓮如上人御一代記聞書』(第一九五条)に「人のわろきことはよくよくみゆるなり。わが身のわろきことはおぼえざるものなり」とあるように、みずからの誤りや愚かさにはなかなか気が付きがたいもので、すぐにそれらを他人のせいにしてしまい易い。「われよし、ひとわるし」と互いに言い合つて、そのために争いが止まないのである。

自己の愚かさをしる。——浄土教の祖師たちに共通して見られる人間自覚である。そこには徹底して自己を掘り下げ、自らの心を見つめられた祖師たちの仏道の歩み(実践)があつたことを忘れてはならない。その意味においては、いわゆる聖道門の仏道修行においても同じであ

つて、聖者とたたえられる人たちは自己の愚や悪を赤裸々に懺悔している。

詩人榎本栄一さんは「しくじり」を次のように綴っている。

またひとつ しくじった

しくじるたびに 目があいて

世の中すこし ひろくなる

しくじりも失敗もみな、おかげさまだと喜ぶことができるのは、一体どうしてなのだろうか。しくじりを後悔して歎くのではなく、しくじりをわが身のうえに担つていくことが大切であつて、そこに「おかげさま」と受け止める道が開かれたと思われる。

「凡夫というは 無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおおく、いかり・はらだち・そねみ・ねたむ心おおくひまなく……」(『一念多念文意』)と述べられた親鸞聖人のことばは、凡夫とは愚かな身であり、欲多いあさましい心に充ちている人間であることを端的に示している。このような人間凡夫という自覚がどうして得られたのであろうか。そのことを詳しく見てみたいと思うが、端的にいうと聖人における凡夫の自覚は、如来からたまわったものであつた。すなわち、その自覚は如来の限らない智慧のひかりから生じたものであつて、これが浄土真宗なのである。

仏説観無量寿經(観経)[その3]慈悲

ぶつ せつ かん む りょう じゆ きょう かんぎょう じ ひ



経子◇春めいてきましたね。
住職◆そうですね。「ほっこを

している」と、ゲまちよくて
つい居眠りしそうですよ。

経子◇阿弥陀さまの光も、暖かく
柔らかな光で、私たちを包
んでくださっていますね。

住職◆はい。阿弥陀さまの光明に
触れる者は「身心柔軟にな
る」と、ご本願に誓われて
います。

経子◇人間同士、かたくなになっ
てお互いにいがみあうのは
ご本願に背きますね。

住職◆その通りです。「観経」に
『仏心とは、大慈悲これな
り』と示されています。仏
の心というのは、そのまま
が大慈大悲だと説かれてい
ます。お慈悲を味わいまし
よう。

経子◇「慈悲」を知ることにより
阿弥陀さまの心がわかって
くるのですね。

住職◆仏教で「慈」は、あらゆる
ものに対し、友として深い
いつくしみを以って接する
ことをいい、「悲」は自分
の中にある痛みを内省して
他者へのおもいやりを深め
ることをいいます。大慈・
大悲が阿弥陀仏の心です。

本願寺第三代覚如上人の歌
に「あわれみを ものに
ほどこす心より ほかに
仏のすがたやはある」と
もありますよ。

経子◇「いつくしみ」や「おもい
やり」や「あわれみ」が
「慈悲」ですか。

住職◆これは私の慈悲ではなく、
阿弥陀さまの大慈悲をいう
のです。

経子◇私にだって「いつくしみ」
や「おもいやり」を「あわ
れみ」の気持ちはあります
よ。

住職◆それは尊いことですがね。
「大慈悲」は個人の思いを
超えて全てを包む徹底した
阿弥陀さまの慈悲を指して
います。

経子◇「慈悲」と「愛」とは違う
のですか。

住職◆仏教では「自己愛」を否定
します。自分に都合の良い
「愛」は、都合が悪くなる
と「憎しみ」に変わってし
まいます。「憎しみ」の裏
返し「愛」では自他の救
いは完成しないと見るから
ですよ。「憎しみのない究
極の愛」を「大慈悲」と表
わしていると言えます。

経子◇では仏の心は「憎しみ」が
ないのですか。

住職◆そうですね。苦しみ悩む者を
救う阿弥陀仏の大慈悲が、
この『観無量寿経』の主題
になっています。

王妃イダイケが夫や我が子
アジャセとの愛憎に苦しみ
悩む赤裸々な人生模様を繰
り広げる現実に、阿弥陀仏
(無量寿仏)のお慈悲の光
がナモアマミダブツと呼びか
け働いています。

経子◇「愛」を超えた慈悲の仏心
が具体的現実の場で説いて
いる経が『観経』ですか。

住職◆「無縁の慈をもって、も
ろもろの衆生を撰す」と
『観経』にあります。

経子◇「無縁の慈」とは何ですか。
住職◆平等であって無差別な仏の
大慈悲をいいます。愛憎を
超えた世界ですよ。

経子◇阿弥陀さまは、慈悲の光を
もって差別無く、平等に照
らし衆生を救うのですか。

住職◆お慈悲は暖かい春先の陽光
のように私たちを包んでい
てくださいます。仏心をい
ただきませう。

経子◇ナマンダブ、ナマンダブ、
ありがとうございます。

●春彼岸

●お彼岸がやってまいります。「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、心落ちつく良い季節です。彼岸の入(いり)が三月十八日、お中日が二十一日、明けが二十四日となります。ご先祖を偲び、お念仏のいわれを聞こうという習慣です。

●瓜生津隆真先生の本

本紙の二面を担当いただいている瓜生津先生の本を御紹介します。

- ・児童書絵本「お釈迦さま」監修 二二二頁 六八〇円
- ・一般書「仏教から真宗へ」著書 二四九頁 一、〇〇〇円
- ・シリーズほうわ「親鸞聖人に学ぶ」著書 三二二頁 一〇〇〇円
- ・聖典セミナー「浄土三部経Ⅲ」著書 二〇五頁 二、二〇〇円
- ・お問合せ、お申し込みはいずれも本願寺出版社 電話〇七五―三七―四一七―一 FAX〇七五―三四―七七五三 一冊からでもお求めいただけます。(価格は全て税別となります)

●西本願寺展 開催間近

いよいよ三月二十五日より国宝、重要文化財を多く含む「西本願寺展」が始まります。東京上野、国立博物館に於いて。是非ともご覧下さい。これほど多くの寺宝が一同に会することは二度とないことでしょう。会期は五月五日まで。

ほうねん 法然と親鸞 ②

法然上人は十三才で比叡山にのぼり十五才で出家、つまり、正式にお坊さんになります。十八才で法然房源空と号しました。二十四才で南都(現在の奈良県)へ向かいます。それは中国への留学を経験した高僧に学ぶ為でありました。保元(ほげん)元年、一一五六年の事です。有名な保元の乱が起きるのはこの年です。朝廷内で崇徳上皇と後白河天皇が対立し、藤原氏内では頼長と忠通が対立していました。上皇と頼長が組み源為義と平忠正を味方に、天皇は忠通と組み源義朝、平清盛と組んで戦ったのです。結果天皇側が勝利するのですが、この戦い以後、武士が政權を握る様になっていく時代です。その三年後、今度は勝利側で組んでいた平清盛と源義朝が勢力争いの戦いが起きます。平治の乱です。世の中は乱れ、民衆は戦いの中で救いを求めていました。法然上人は南都で仏教の真の姿を求めています。「乱れに乱れた末法の世の中で、こんなにも多くの人が悩み、苦しんでいる。真の仏法とは、すべての人々が救われる道でなければならぬ」と強く思われたのです。

日常に使う仏教語

●病院・息災・達者

病院の待合室で……

『おや、あなたもお風邪ですか』
『ええ、ちよつと。無病息災とはいきませんな。お互い気をつけましょう』
『じゃ、お達者で』

●病院―聖徳太子は仏教伝来の当時、大阪に四天王寺を建て、悩む人々のため「敬田院」「施薬院」「療病院」「悲田院」という四個の仏教を基礎とした福祉施設を設けました。このうち「療病院」が日本最初の病院の記録です。病人を治療する場から療病院です。

●息災―罪障や災害を息止すること
を息災といえます。

●親鸞聖人作「現世利益和讃」に

阿弥陀如来 来化シテ

息災延命ノ タメニトテ

金光明ノ 寿量品

トキオキタマヘル ミノリナリ

とあります。

●達者―仏道に深く達した者を、達者と表わしました。聖徳太子の憲法十七条第一条に「また達者すくなし」と出ています。